

令和7年10月15日提出

有喜貝塚発掘 100 周年「諫早の縄文展」の開催

標記について、次のとおりお知らせします。

日 時	令和7年11月29日(土)～令和8年1月18日(日)
場 所	諫早市美術・歴史館 2階 企画展示室1・2・3
内 容	【開催のきっかけ】 有喜貝塚は大正 14 年(1925)京都帝国大学(現在の京都大学)によって発掘調査が行われ、長崎県内で最古の学術調査だったことから「長崎県考古学発祥の地」と称されています。 今年は、この調査から 100 年の節目にあたることから、その当時の出土品を京都大学総合博物館より借用し展示会を開催します。 【展示の概要】 本市は橘湾、有明海、大村湾の三つの海に囲まれ古来より海の恩恵を受けてきました。有明海をのぞむ西常盤貝塚、大村湾をのぞむ伊木力遺跡、橘湾をのぞむ有喜貝塚の三つの縄文時代の遺跡があり、それらの出土品を同時に展示します。展示品を通じて、諫早が三つの海と関わり始めた縄文時代の様子を知ることができます。 今からおよそ 6,000 年前の縄文時代の前期から 3,000 年前の縄文時代後期の 3000 年間に、諫早の人々が三つの海とのかかわりをどのように持っていたのかを知ることができます。 【期間】 令和7年(2025)11 月 29 日(土)～令和8年(2026)1 月 18 日(日) 観覧時間 10 時～18 時(入館は 17 時 30 まで) 休館日:毎週火曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日 【料金】 無料 【主催】 諫早市 【後援】 長崎県教育委員会 【ギャラリートーク】 市文化振興課 学芸員による展示解説 12/6(土)、12/21(日)、1/11(日) 14:00 から30分程度 ○添付資料:チラシPDF(A4サイズ両面) ※京都大学肖像の縄文土器 4 点の写真データ(「京都大学総合博物館所蔵」クレジット掲載必須) については、希望される場合は下記まで連絡をください。
問い合わせ先	諫早市経済交流部文化振興課 担当:野澤・平古場・江口 電話番号:0957-22-1500(内線3672) E-mail:buunka@city.isahaya.nagasaki.jp
担当課	同上
備 考 (記事解禁日等)	有喜ふれあい会館のロビーにおいて、ミニパネル展示を開催中 ※パネル内容は添付資料参照



有喜貝塚発掘一〇〇周年

諫早の縄文展

令和7年

令和8年

11月29日土—1月18日日



京都大学総合博物館所蔵

観覧
無料

諫早市美術・歴史館 2F企画展示室

10:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日／毎週火曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日

主催／諫早市 後援／長崎県教育委員会

お問い合わせ

●諫早市美術・歴史館
TEL:0957-24-6611 FAX:0957-24-6633 Email:bireki@city.isahaya.nagasaki.jp
●諫早市経済交流部文化振興課 TEL:0957-22-1500



諫早の縄文展HP



諫早市美術・
歴史館instagram



諫早の縄文展

有喜貝塚発掘一〇〇周年

諫早市は橘湾・有明海・大村湾の三つの海に囲まれ、古来より海の恩恵を受けてきました。

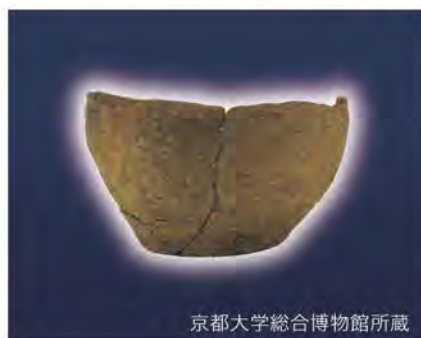
有明海をのぞむ「にし とき わ かい づか西常盤貝塚」、大村湾をのぞむ「い き り き い せ き伊木力遺跡」があり、橘湾をのぞむ「う き かい づか有喜貝塚」の資料と同時に展示することで、それぞれの貝塚の特徴や縄文時代における三つの海を介した活発な交流の様子を明らかにします。



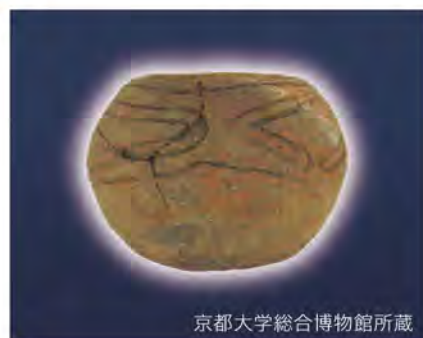
京都大学総合博物館所蔵



京都大学総合博物館所蔵



京都大学総合博物館所蔵



京都大学総合博物館所蔵

諫早の縄文展

記念イベント

※駐車場は限られますので、乗り合わせてお越しください。
もしくは公共交通機関をご利用ください。

ギャラリートーク

学芸員による展示解説 (14:00から30分程度)

令和7年 12月6日(土)・12月21日(土)

令和8年 1月11日(土)

諫早市文化振興課学芸員(考古学) 野澤 哲朗

講演会・パネルディスカッション

※講演内容は変更になる場合があります。

令和7年 12月7日(日) 13:00～17:00

諫早市民センター(中央公民館)1階 講堂 諫早市東小路町8-5

講演会

「有喜貝塚発掘100周年と京都大学の考古学研究」

京都大学大学院教授 吉井 秀夫

「日本の埋蔵文化財行政100年」

文化庁主任調査官 近江 俊秀

「長崎県の文化財行政100年」

長崎県学芸文化課 中尾 篤志

「諫早市の文化財行政100年」

諫早市美術・歴史館 大島 大輔

パネルディスカッション

「諫早市の文化財、これまでの100年とこれからの100年」

パネラー 諫早市文化財保護審議会 会長 下川 達彌

諫早史談会 会長 秀島 貞康

【お問合せ】 諫早市美術・歴史館 TEL:0957-24-6611 FAX:0957-24-6633 Email:bireki@city.isahaya.nagasaki.jp
諫早市経済交流部文化振興課 TEL:0957-22-1500

008



波状口縁（はじょうこうえん）の浅鉢（あさばち）

（高さ 13cm 胴部径 20 cm）

○縄文時代中期後半 約 4,500 年前

○凹線文、滑石を混入しているので光沢あり

009



装飾の無い浅鉢（そうしょくの無いあさばち）

（高さ 11 cm 口縁部径 24cm）

○縄文時代中期後半 約 4,000 年前

010



丸型の浅鉢（まるがたのあさばち）

（高さ 10cm 胴部径 14cm）

○縄文時代後期 約 4,000 年前

○摩消(すりけし)縄文による表面装飾

011



装飾付の浅鉢（そうしょくつきのあさばち）

（高さ 15cm 底径 8cm 幅 25cm）

○縄文時代後期 約 4,000 年前

○摩消(すりけし)縄文※

○四方に手を伸ばしたような装飾

○赤い色が塗布



見学の人がいっぱいいるね
村中の関心の的
だったんだね

見学の人には現在の
洋服と違い和服を着ている人も
いるね

有喜の貝塚

濱田青陵著『百済観音』大正 15 年より抜粋

長崎で一夜を明かしたわれわれは、次の日から長崎県北高来郡有喜村大字船津という、半月ばかり前までは地図のどのところにあるかも知らなかった漁村の人となった。宿屋にも不自由なこの村では私たち一行は川口さんの邸にとめてもらうことになって、いまは未亡人と中学二年の遺孤を守ってられる宏壮なお医者さまの二階が私たちの日夕起臥する部屋となった。千々岩湾を眼下に眺め、雲仙の高峰が目の前に仰がれる楼上の眺めは、実にまたないものであったばかりでなく、心づくしの待遇はわれ等をして家庭の人のごとき心安さを覚えしめた。(中略)

三日目には貝層から六尺に近い大男のほとんど完全な骨を掘り出し、いよいよ村中に評判が高くなり、私たちの掘っている周囲には、二重、三重の人垣ができ、風をさえぎって釜中に蒸される思いをなさしめたのみならず、時には子ども等(?)がガスを吹き送るのには閉口し、見物の巡査が怒って剣をもって威したのもおかしかった。掘り下げた穴の中から見上げると四面に茶色の脛、白い脛が林のごとくに立っている。また遠く外から眺めると、とりどりの日傘の色、赤い腰巻、白い裨天、さすがに色彩配合の美しさはある。

中にもおもしろいのは嬰兒をカンガルーのように、腹の前の衣中に入れる風俗であって、幅広い帯を締めた女性は、この村にほとんど見られないほどである。こうなると見物人もかえってわれわれの見物の対象となり、少しも迷惑とはならなかった。

大男の首をとり上げると右胸の肋骨の下から、一個の鉄鏃が出て来たのは何よりの獲物であった。石器時代にあったこの有喜の貝塚人が、すでに鉄器を使用した近傍の他部落と戦って殺されたものであろうと、人々が「ロマンチック」な想像をめぐらすのも道理である。また第二の石槨が出て来たが、これにはほとんど人骨は残っていなかった。肥後阿高の貝塚に似た土器の破片と人骨とが、付近の浜氏の納屋にいっぱいになり、その妻女の臨月の腹が無事な間に、われわれは辛くも有喜の発掘を終了することができたが、この間毎日浜氏の宅を本陣のごとく使用してあらゆる厚意に浴したことで、神崎村長が毎日われわれのために周旋して倦むことなく、青年団の人々が炎暑をおかして発掘の労苦を提供せられたことは、長崎から私たちと行をともにせられた内山、佐藤両氏が始終発掘事業を助けられたことともに、われわれが心から感謝の意を捧げるところである。

毎日下駄ばきシャツ1枚で村内を歩きまわり、麦藁帽子の中に桃を買って帰ることのできる心安い生活は、都会においてはとうてい想像にもおよばないことである。川口さんの家で貸してもらった女物の浴衣を着て、川口屋に晩飯を食いに行く私たち仲間の姿が村人の目におかしくなくなって来た頃には、ついに有喜村を引きあげねばならないことになった。私が腹を痛めて引きこもった一日の夕べには、お寺の本堂に蒸せ返るように集まった村の老若男女—私の立っている演壇の前にはグウグウと眠っていることもさえたくさんある—に一場の講演を、村への唯一のお礼として、次の日にはようやく親しみを加えた川口さん一家の人々と記念の撮影を残して、私は一足先に諫早の講演に急ぐべく、有喜の村に名残りを惜しんで出発した。

貝塚発掘の結果がいかなる意義を考古学上に有するか、われわれはいかなる重要な新資料をこの貝塚から獲たか等の問題はいまここに書くばあいではない。ただ愉快的な有喜の数日、老夫人のおもしろい話に耳を傾けた毎夜のまどい、長崎から訪ねられた林、田崎、浅田の三博士や、二宮医伯と、雨風の中に貝塚の傍で語り明かした記憶、さらには熱心な松永老軍医の毎日の活動など、これ等はみな私どもが有喜の貝塚とともに、永遠に胸に蔵する楽しい記憶であろう。

有喜貝塚の土層はぎとり標本(どうやってつくったでしょう①)

土層はぎとり標本は発掘調査が行われた土層断面をはぎとり保存することで、現在では地中に埋まって目にする機会がない貝塚の土層を目にすることを可能にし、さらに土層の写真や文字による記録(実測図など)を補い、将来の調査研究が期待されるものになります。



土層断面(土層をはがされる前の状況)



土層断面に接着剤を塗った状況

夏の雨の合間をみはからいながら、土層断面に土層をはがすための接着剤を塗った様子です。

有喜貝塚の土層はぎとり標本(どうやってつくったでしょう②)



裏打ち状況(布貼り付け状況)

接着剤の上に布をかさねてはがす面を補強した様子です。数時間後、接着剤が固まったら土層を布と一緒にはがします。はがす面が壊れないように、ゆっくり慎重にはがしていきます。このように土層のはぎとりは長雨の影響や接着剤のかたまり具合、はぎとりの大変さで計9日間にわたって行われました。



完成した土層はぎとり標本

土層はぎとり標本は発掘現場から壊れないよう慎重に運ばれ、発掘調査終了後(埋め戻された後)も貝塚の土層の実物を質感、スケール感を感じながら観察できます。